

5月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調である。鹿沼、大田原木材共販所は順調に入荷しているが、矢板木材共販所はやや少な目となっている。製品の荷動きが悪いため、樹材種によっては引き合いが弱い。大型製材工場の当用買いの入札が目立ち、応札枚数も少なくなっている。スギ柱材は底値感と見られるが、スギ中目材、ヒノキ全般は弱保合である。間伐材、小径木は動いているが、価格は低調で推移。

群馬県でも原木出材は順調で需要も少なく集荷しやすいが、先行き不安があり、集荷を手控えている。原木在庫も最低限まで絞る予定である。製材工場の操業も通常の7割程度に落としている。5月中旬までの仕事は確保しているが、その先の見積は少ない。新型コロナウイルスの影響で製材工場は減産しており、スギ、ヒノキの柱、間柱など大量生産の品目は荷余り状態になっている。製品価格は低位安定で推移。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は再開されていないが、昨年造材分の輸出公示(Advertise)は3/25より毎週行われているが、日本向け材のオフア-再開には至っていない。輸出向け港頭在庫の払底状態は変わっていない。新型コロナウイルスの影響で米国内の製品需要は急減しており、工場の減産で米国内原木価格は下落。これに伴い輸出価格も反落し、5月積みIS級並の輸出価格(推定)は前月比-30ドルの\$810になった模様。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(5/1)は\$361/Mで4月頭に比べ0.8%アップ。先行き米国住宅着工件数が急激に増加するとは想定されず、価格は同水準、または下落の方向で推移するものと見られる。

3月の原木入荷量は234千 m^3 と復調、1~3月累計で525千 m^3 (前年同期比21%減)。カナダからの入荷が前年同期比で1/3となったのが主因。出荷量は209千 m^3 、1~3月累計で503千 m^3 (同22%減)。在庫量は210千 m^3 に増加し在庫率は1.1ヵ月。国内米マツ製材工場の荷動きは都市部を中心に低下しており、稼働も徐々に落ちつつある。東京木材埠頭の4月入荷は23千 m^3 (前月比48.6%増)、出荷は23千 m^3 (同45.6%増)、在庫は30千 m^3 (同0.7%減)。6月以降の先行きが不透明なため、各社とも買付は慎重にならざるを得ない状況。

3. 南洋材

サバ・サラワク州では5/12まで移動制限が続いている。サラワク州では合板工場の操業、原木伐採も認められている。原木生産は天候良好で順調だが、インドでのコロナ感染者の増加が深刻で経済活動が止まっているため、引き合いは弱く、サラワク原木市場は閑散としている。PNGでは非常事態宣言が継続中で、木材船は入港前に14日間の隔離を条件に入港が許可される。原木伐採は原則禁止だが、政府森林局の承認条件で許可されている。大半は伐採を中止しており閑散としている。FOB価格は輸出税の増税もあり上昇。

4. 北洋材

シベリアや極東では新型コロナウイルスの影響は限定的で、対日主力工場は操業を継続しているが、注文減で稼働は低調である。日本側との新規交渉は実質停止で契約残は少なくなっている。アカマツ原板は先行き不安から買い気は薄い。現地挽き完成品はDIY/ビルダー現場等の直需向け安定した出荷が続いていたが、コロナ騒動により新規注文は激減している。4月入荷が記録的な大量入荷になることが見えており、市場の雰囲気は最悪である。国産完成品はDIYからの注文が活発で、各メーカーは注文をこなすのに多忙であるが、先行き大きな不安がある。5月予想の原木入荷・出荷量とも5千 m^3 、在庫量は18千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)23千 m^3 、出荷量19千 m^3 、在庫量64千 m^3 。

5. 合板

合板用原木の国産材はやや弱含み、ロシア材は大きな変化はないが、買い控え傾向にある。米材は一部伐採されておらず先行きは不透明。南洋材は一部で原木伐採が止まっているが、今のところ支障はない模様。

3月の国内合板生産量は26.3万 m^3 、うち針葉樹合板は25.4万 m^3 、出荷量は23.8万 m^3 となり、在庫量は17.5万 m^3 、うち構造用合板の在庫は14.7万 m^3 となり、今月も増加となった。針葉樹合板は荷動きが非常に悪く、全体的に強い停滞感がある。各工場は減産を行っており、価格の引き締めが出る可能性もある。輸入合板は停滞感が強く、価格は今のところ横ばい推移だが、現地工場は強気姿勢であり、先行き不透明である。3月合板輸入量は21.7万 m^3 で、前月に大幅に減少した中国産が回復傾向にあり、全体では平均的な入荷となった。インドネシアの各工場は生産量を調整、原木供給は比較的安定しており、価格は若干の強含み。マレーシアでは各国からの引き合いが少なくなっている。現在、サバ州は原木伐採禁止、サラワク州は限定的となっているが、

今のところ大きな問題は見られない。

6. 構造用集成材

4月のラミナ入港は3月と同水準でやや少なかったが、5月は通常通りの入港が見込まれる。現地では新型コロナウイルスは収束に向かっているが、コンテナの不足問題は今月末まで継続すると予測される。第2・四半期交渉でRW・WWラミナは10ユーロ台の値上げとなった。産地の集成材生産は縮小しているが、日本向けはおおむね維持されている。日本の夏から秋にかけての需要を厳しく予測する企業は新規提示数量を通常より絞る可能性もあり、夏以降の入港量の減少が予測される。RW積層間柱は荷余り気味である。

7. 木材チップ

新型コロナウイルスの影響により原木はC・D材向けに流れている。解体材は物件・発生量とも大幅に減少。製紙用チップは製紙会社の操短に伴い使用量は減少しており、特にNCの減少幅が大きい。各社集荷の中心は安価な解体系のピンチップ（破碎チップ）にシフトしている。燃料用チップは大手の定期修理が複数あり消費量は減少の見込み。製紙用チップの原木在庫量は潤沢だが、ピンは在庫がタイトである。燃料用は解体在庫が急激に減少している。操短のチップ工場もあり、原木在庫の二極化傾向が見られる。

8. 市売問屋

新型コロナウイルス対応の3密防止により市場も休市になってきており、市場の中は静かである。材木店は仕事の見通しがつかないため、当用買いに徹している。構造材、造作材ともに荷動きは悪く、値上げの気配は全く無い。産地では注文が止まり、生産を半減している製材所も見られる。

9. 小売

町場の工務店の仕事自体には大きな影響はなく、細かい仕事はあるようだ。スギ構造材の動きは全体的に悪くはなく、価格は保合。ヒノキ構造材はやや停滞感が出ており弱含み。WW、RWともに実需は低調で不足感は目立っておらず、価格は横ばい。米ツガ構造材は供給減だが、価格は横ばい。造作材は輸入製品の入荷遅れを懸念した在庫手当の動きは続いているが、先行き仕事の見通しが立たず、厳しい状況が続いている。集成フリー板は入荷遅れの状態だが、欠品にはなっていない。合板は4月から若干入荷量を調整しているが、販売にそれほど影響は出ていない。国産合板は横ばい、輸入合板も国内市況が停滞しているため現状維持。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和2年5月22日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	↘	→
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	→	↘

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	→
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	↘
			ヒノキ中丸太(4m)2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↘
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↘
		アカマツ(KD)16×40上級	↘	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→